



▼ 第27回青函カップヨットレース

やはりヨットは風で走る！艇を乗り換えてはや6年か！？この間何度となくフィニッシュラインを切ることなくリタイヤ・・・あきらめと言うか、エンジンをかけるのがうれしいと言うか（これで早く青森に行ける）全く賞に関係ないと思いつつ、でも風が吹けば・・・！

願い叶ってその風が漸く今回吹いてくれた。アビームのどん吹きなら勝ち目はあると確信していたが今回はその思いも通じた！魔の3角地帯（平館）も15分程度の風で抜け出した。久しぶりのフィニッシュラインの切方も大げげ、本部船と浮標の間を通ったが、「どうしてホーンが鳴らないんだ！」でもその間違い（アウトマーク）にすぐに気づきやり直し。スタート当日のそれも21時着はその後の2日間のスケジュールを考えると何とも体に心地良い。全く予想にしてなかったクラス別優勝が転がり込んできた。前艇のY-34Sの総合優勝以来の久しぶりの快挙か？でもやはりどん吹きとは言えどもベネトウオセアニス40は遅い！ペガサスと並走したがその走りは歴然、でも今後も風の力を最大限、恩恵を被ってこのデブ！（失礼）とお付き合いしたい。

GALOPPER

▼ 第3回トヨペットカップ優勝艇《DHARMA》

函館トヨペット杯優勝に関して、DHARMA3より私儀、屈辱に耐えるは大きな志を持っているからである、と先人は云っているが美味しいお酒を飲めれば幸いである、今年度も万年ブービーかブービーメーカーか、これを何とか脱却すべき、新年より孫子の兵法書を読んで研究しようと思心を決めるも未だ志半ばだ、さて、今回の優勝メンバーを紹介します、天が我がDHARMAに使わしたH見氏、何故か彼と一緒にくっついて来たBP艇の鬼瓦権造みたいなT永氏、紅一点、歌手平浩二の寄せて寄せて、上げて上げて、のナイスミドル、T田女史、P艇のY本氏当年78歳の近所のご意見番、昔から一緒に56歳でも若造と呼ばれているU野氏、仏のYとか忍耐のYとか呼ばれているが、巷ではレースの時、居ない方が良い成績だねと言われていたY氏の6名、最強のメンバーだ、レース内容を詳解、参考になれば幸いです、私は前回優勝S艇の会報コメントを読んで参考にした、スタート時、スターボーカ灯台近くか銘々バラバラ意見が合わず、スタートライン中間を取って行く事になる、5分前からカウントダウンといっても誰1人返事無し、だんご状態でスタートし去年までの悪夢が一瞬頭を蘇る、しかし、穴間付近でトップに出る勢いだ、が、あれよあれよという間に抜かれた、ライバルK艇の後ろを帆走、白い髭の御仁に手を振られた、横から、D艇風が吹けばさすが大きなヨットは早い、何故かワンポン？往年のライバルN艇寒川付近で釣りか、しかし、大鼻手前で風をつかみ我が艇より先行だ、先行艇が次々とタック漸く我が艇もタックした塗炭、横のD艇から罵声、下品な声だ、紳士で安全帆走で行こう、立待岬前方のマークを目指すも我が老人クラブは老眼と近眼でどこに有るのか確認できず、先頭が廻航し、2艇目が廻航して漸くあの辺にマークがある事を認める、我が艇もマークを廻航し、漸くビールだ！350cc美味しいひと時、立待付近先行

艇スピンだ！我が艇もスピンだ、スピニアップするも近代稀に見る提灯ではないか、スピンドウン、これが最悪、我が艇の後ろに小魚でも救うような漁網に変身、回収不能、切るべ、等々に返事せず、大鼻まで来る、その間後続艇に抜かれ、アーアー、と思いきや、漸く回収、再度スピンといっても誰も動かず、そこで一か八かで函館山を撫でる様に接近策を取り漸くゴール、着岸し時間があつたのでオーナーY氏より非常に悔しい、スピン操作、チームとしての協力、個人主義に走らないなど愚痴をこぼす、皆で残念会拍手要員行こう、落ち込みながら何故かビールが美味しい、順位発表、驚き！優勝の二文字、うれしくて、うれしくて、酒を飲みすぎ関係者、皆様にはご迷惑を掛けたと思ひますが優勝に免じてお許し下さい、感謝して居ります。

優勝艇 DHARMA より。

レース結果は裏面に掲載

\*\*\*アンカーライト\*\*\*

第22話 港放浪記 「渡島福島港」

過去に何度か入港した。最初は小島レースのときで、風がなく白神岬手前で宵闇を迎えるというときで低気圧が迫ってきていてとてもじゃあないがこのあと白神岬を超え小島回航は無理と判断し、スタコラ福島港に逃げ込んだのだ。このときは逃げて正解、夜半には風も強まり時化となった。他のレース艇が必死こいて夜間小島を回航しているときわしらは福島の居酒屋でいい気持になっていた。

最近ではナイトレースに出ることは少なくなったものの、いまでも夜間吹かれて乗っているときなどは「なんでこんなことやってんのかねえ」と思う。「ああ、早くあったかい風呂に入って一杯やりたいなあ」とか、「あったかい布団で寝たいなあ」とか思うのである。

このときの福島に逃げ込んで一杯やったときの気持ちの良さがいまでも引きずっている。

「そんなに無理して苦勞することないよなあ・・・」と思うのである。

2回目は10数年前だろうか、1泊クルーズで福島港目指して行った。なにかのお祭りかイベントがあつた気がした。福島でDブロスと合流、マイウェイ夫妻も陸路集合してテント仕立てで夜遅くまで騒いだが、途中で豪雨となり散々な思いをした。

ここはその昔三厩との間にフェリーも発着した港で奥も深く団体で入港してもキャパがあると思う。このときは道の悪条例ができたところで条例を盾にイジワルをされ外防波堤に繋留した。いまではそんなこともないだろうがいざとなれば2マイル先に吉岡港があり、ここはフィッシャリーナであるから気持ちよく泊まれる。

比較的大きな町なので飲食店はたくさんあり、過去にはフィリピンバーもあつたくらいだから飲み食いするには困らない。観光的にも横綱千代の富士の記念館もあるので覗いてみてはいいか。

海峡をこえるまでいかにちょっとしたクルーズ気分を味わうにはちょうどお手ごろな距離でシケられても帰って来れる、お庭の少し先みたいなどころ。もっとみなさん遊びに行ってもいいと思うがどうだろう。